

Canon

MACRO RING LITE MR-14EX II



J

使用説明書

はじめに

キヤノンマクロリングライトMR-14EX IIIは、E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光に対応したEOS用近接撮影用ストロボです。発光部A、Bの光量比制御、片側発光、スレーブストロボを追加したワイヤレス増灯撮影、マニュアル発光機能など、簡単な撮影から高度な撮影まで、撮影意図に適應するさまざまな機能を備えています。

● カメラの使用説明書もあわせてお読みください。

ご使用になる前に、本書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

カメラとの組み合わせについて

● EOSデジタルカメラ（Aタイプカメラ）との組み合わせ

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるマクロストロボ撮影を行うことができます。

● EOSフィルムカメラとの組み合わせ

● E-TTL II/E-TTL自動調光方式のカメラ（Aタイプカメラ）

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるマクロストロボ撮影を行うことができます。

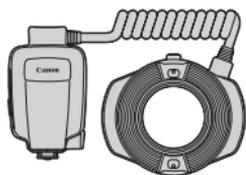
● TTL自動調光方式のカメラ（Bタイプカメラ）

76ページを参照してください。

* 本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。

ストロボと主な付属品

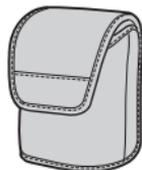
ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



ストロボ



レンズキャップ
(p.16)



ケース

※ 付属品は、なくさないように注意してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

-  : 選択ダイヤルを示しています。
-  : 設定ボタンを示しています。
- 4 / 6 / 8 / : 操作ボタンから指を離れたあと、ボタンを押した状態が
10 / 16 4秒 / 6秒 / 8秒 / 10秒 / 16秒間保持されることを示しています。
- (p. **) : 参照ページを示しています。
-  : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
-  : 補足説明や補足事項を記載しています。
-  **応用** : ページタイトル右の **応用** は、カメラの撮影モードが **〈P / Tv / Av / M / B〉** (応用撮影ゾーン) のときに機能することを示しています。

操作説明の前提について

- カメラとストロボの電源が入っていることを前提に説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、カメラとストロボに使われている絵文字を使用しています。
- カメラのメニュー機能 / カスタム機能、およびストロボのカスタム機能 / パーソナル機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 各種数値は、単3形アルカリ乾電池を4本使用し、当社試験基準で測定した値です。
- マクロレンズの使用を前提に説明しています。

 撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、77ページの『安全上のご注意』をお読みください。

章目次

	はじめに	2
1	撮影前の準備とマクロストロボ撮影 マクロストロボ撮影の準備と基本的な撮影方法	13
2	カメラ操作によるストロボの機能設定 カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法	37
3	ワイヤレス増灯撮影 スレーブストロボを使用した光通信によるワイヤレス増灯撮影	43
4	ストロボのカスタマイズ カスタム機能、パーソナル機能によるカスタマイズ	57
5	資料 システム図、よくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせ	67

目次

はじめに 2

ストロボと主な付属品.....	3
本使用説明書の表記について.....	4
章目次.....	5
各部の名称.....	8

1 撮影前の準備とマクロストロボ撮影 13

電池を入れる.....	14
制御部をカメラに取り付ける.....	15
発光部をレンズに取り付ける.....	16
電源を入れる.....	18
全自動ストロボ撮影.....	20
撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影.....	21
調光連動範囲の目安.....	24
 A:B 光量比を設定する.....	25
 調光補正.....	27
 FEB.....	28
FEL: FE ロック.....	29
 ハイスピードシンクロ.....	30
 後幕シンクロ.....	31
M: マニュアル発光.....	32
ストロボ設定初期化.....	36

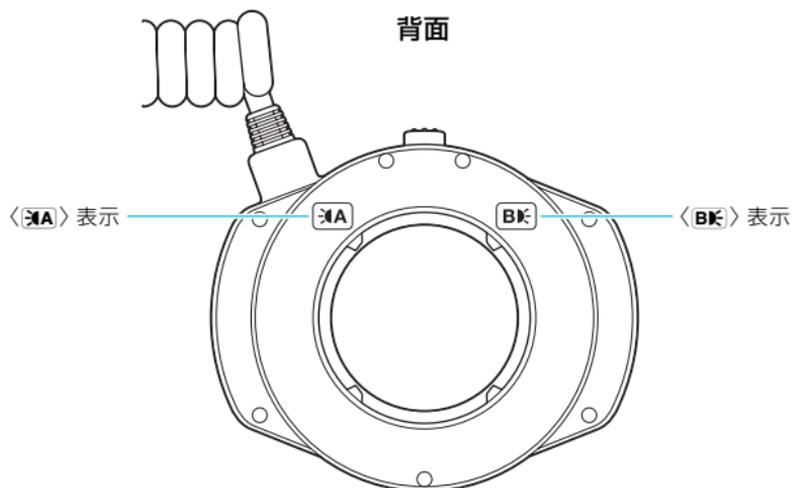
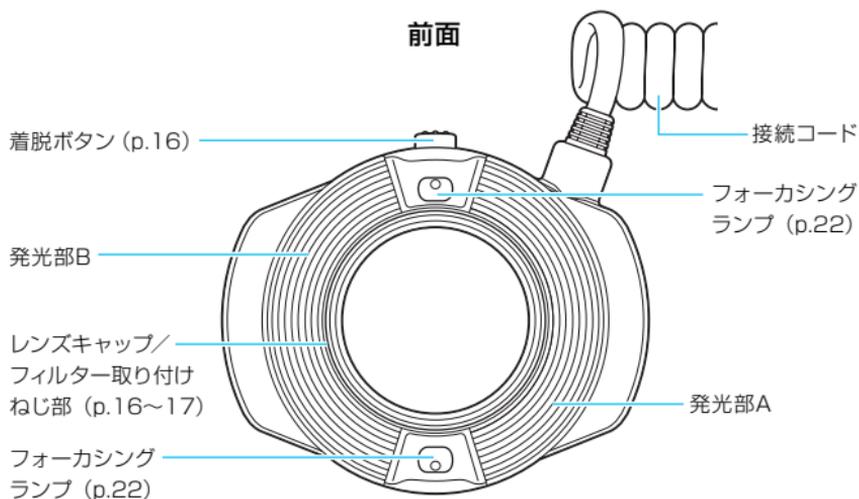
2 カメラ操作によるストロボの機能設定 37

カメラのメニュー画面からのストロボ制御.....	38
--------------------------	----

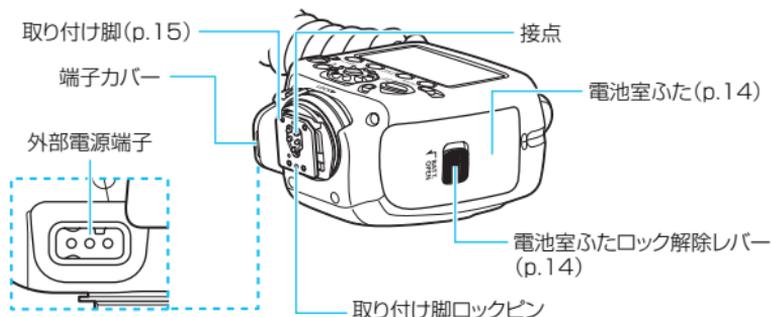
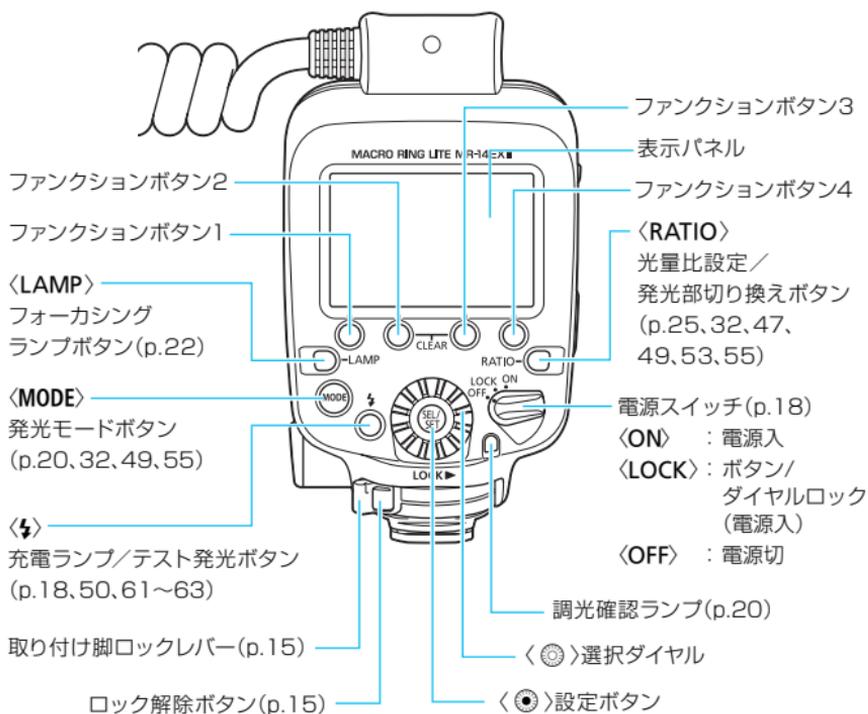
3	ワイヤレス増灯撮影	43
	✦ ワイヤレス増灯撮影.....	44
	ワイヤレス設定.....	47
	ETTL : スレーブ C を追加した増灯撮影.....	49
	ETTL : スレーブ A, B, C を追加した応用増灯撮影.....	53
	M : 発光量を設定したワイヤレス増灯撮影.....	55
4	ストロボのカスタマイズ	57
	C.Fn / P.Fn: カスタム／パーソナル機能の設定方法.....	58
	C.Fn: カスタム機能で変更できる内容.....	61
	P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容.....	65
	メモリー機能.....	66
5	資料	67
	MR-14EX II のシステム.....	68
	温度上昇による発光制限について.....	69
	故障かな?と思ったら.....	71
	主な仕様.....	73
	B タイプカメラとの組み合わせ.....	76
	索引.....	81

各部の名称

発光部

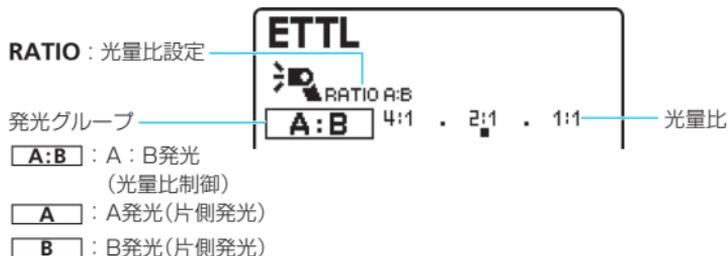
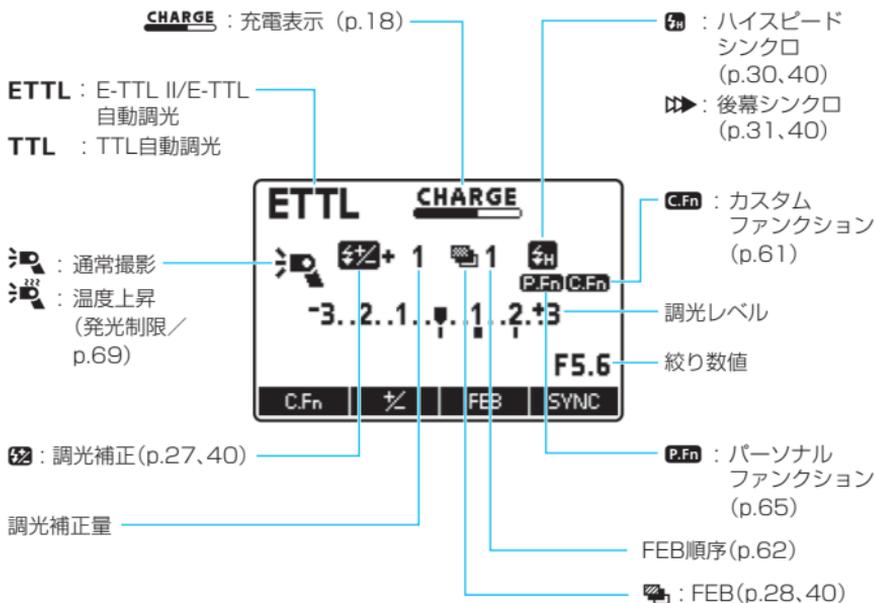


制御部



表示パネル

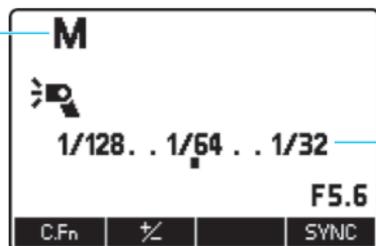
E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光 (p.21)



- 画面は表示例です。状況に応じた部分のみ表示されます。
- ファンクションボタン1~4の上に表示される〈C.Fn〉〈%〉などは、設定状況に応じて表示が変わります。
- ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます (p.19)。

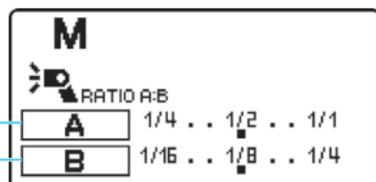
マニュアル発光 (p.32)

M : マニュアル発光



マニュアル発光量

発光グループ



A : A 発光

B : B 発光

光通信ワイヤレス増灯撮影 (p.43)

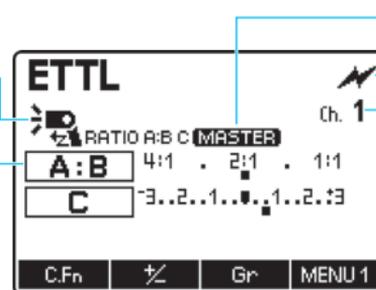
ワイヤレス撮影
(マスター)

発光グループ

A:B : A : B 発光
(光量比制御)

A : A 発光

B : B 発光

C : C 発光
(スレーブ C)ALL : ABC 発光
(C.Fn-15-1 設定時のみ)

MASTER : マスター表示

ワイヤレス : 光通信ワイヤレス

Ch. 1 : 通信チャンネル

🔊 連続発光に関するご注意

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続発光は20回までにしてください。20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 20回連続発光したあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限中は、発光間隔が強制的に約8~15秒になります。そのときは10分以上休止してください。
- 詳しい内容については、69ページ「温度上昇による発光制限について」を参照してください。

1

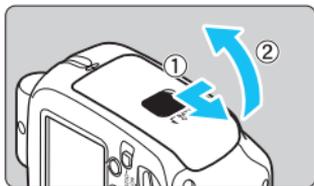
撮影前の準備と マクロストロボ撮影

この章では、マクロストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

- 近接撮影時は被写体条件が大きく露出に影響します。そのため、同じ被写体に対して露出を変えて撮影したり（p.27）、撮影後に露出を確認することをおすすめします。
- カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、ページタイトル右に **※** が付いている機能は設定できません。カメラの撮影モードを **P/Tv/Av/M/B**（応用撮影ゾーン）にすると、この章のすべての操作を行うことができます。

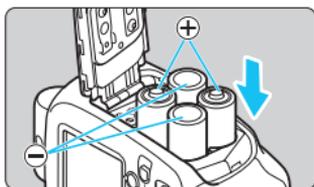
電池を入れる

単3形電池を4本使用します。



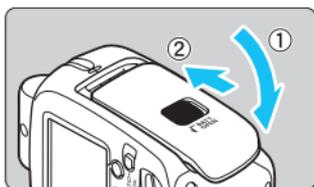
1 ふたを開ける

- 図のように、ロック解除レバーを左にスライドさせ、ふたを下にスライドさせて、電池室ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。
- 電池室の側面の溝は、「-」を表しています。暗い場所で電池を交換するとき便利です。



3 ふたを閉める

- 電池室ふたを閉じて、上にスライドさせます。
- 「カチッ」と音がして、電池室ふたがロックされます。

発光間隔と発光回数

発光間隔		発光回数
クイック発光	通常発光	
約0.1～3.3秒	約0.1～5.5秒	約100～700回

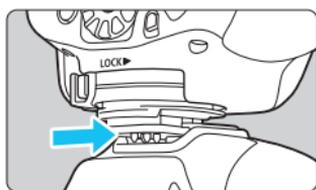
- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、両側発光時、当社試験基準による数値です。
- クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です (p.18)。

- 一部の「単3形リチウム電池」を使用した際に、まれに電池が非常に高温になることがあります。お客様の安全のため、「単3形リチウム電池」の使用は**お控えください**。
- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、電池の種類により接触不良を起こすことがあります。

- 連続発光後に電池を交換するときは、電池が熱くなっていることがありますので注意してください。
- 外部電源 (p.68) 使用時もストロボに電池が必要です。

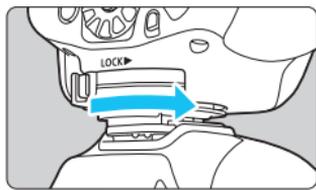
-   が表示されたときや、充電中表示パネルの表示が消えてしまうときは、新しい電池に交換してください。
- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形ニッケル水素電池も使用できます。

制御部をカメラに取り付ける



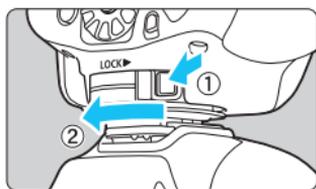
1 取り付ける

- 制御部の取り付け脚がアクセサリースューの奥に突き当たるまで、差し込みます。



2 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
- 「カチッ」と音がしてロックされます。



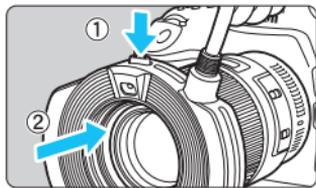
3 取り外す

- ロック解除ボタンを押しながら、ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから外します。

- ストロボの取り付け／取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行ってください。

発光部をレンズに取り付ける

マクロレンズの先端に発光部を取り付けます。

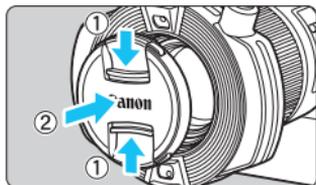


着脱ボタンを押しながら、レンズの先端に取り付ける

- 確実に取り付いていることを確認してください。
- 発光部を回転させるときは、着脱ボタンを軽く押しながら回してください。
- 取り外すときは、着脱ボタンを押しながら取り外します。

レンズキャップの取り付け方

レンズを保護するため、撮影しないときは付属のレンズキャップを発光部に取り付けてください。



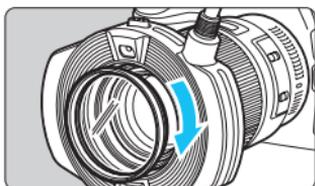
- 発光部に $\phi 67\text{mm}$ のフィルターを取り付けることもできます (p.17)。

- 発光部は必ずレンズに取り付けた状態で撮影してください。発光部を手を持ちながら撮影すると、低温やけどの原因になります。
- 連続発光やモデリング発光 (p.23) を行った直後は、発光部や電池に触れないでください。やけどの原因になります。発光部を取り外したり、電池を交換するときは、温度が低くなっていることを確認してから行ってください。

以下のレンズを使用するときは、レンズの先端（フィルター取り付けねじ部）にマクロライトアダプター（別売）を取り付けてから、発光部を取り付けてください。

- ・ EF100mm F2.8L マクロ IS USM：マクロライトアダプター 67
- ・ EF180mm F3.5L マクロ USM：マクロライトアダプター 72C

フィルターの使用について



ストロボ撮影時に市販のフィルターを併用することができます。フィルターの装着方法は以下の2通りですが、使用するマクロレンズにより使用可否が異なります。

- ① 発光部の前面にφ67mmのフィルターを取り付ける（上図）
- ② レンズの先端（フィルター取り付けねじ部）にフィルターを取り付けた状態で、発光部をレンズに取り付ける

マクロレンズ	フィルター使用可否	
	①	②
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ	使用不可* ¹	使用可能
EF100mm F2.8 マクロ	使用可能	使用不可
EF100mm F2.8 マクロ USM		制限あり* ²
EF100mm F2.8L マクロ IS USM		使用可能
EF180mm F3.5L マクロ USM		使用不可
EF-S60mm F2.8 マクロ USM		
MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト		

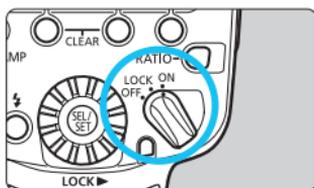
*1: レンズの先端とフィルターが接触してピント合わせができないため、またフィルターに傷が付いたり、レンズが故障する恐れがあるため、使用できません。

*2: レンズの先端にフィルターを取り付けてから、マクロライトアダプター（p.16）をフィルターの前面に取り付けます。フィルターの前面に取り付けねじ山がないときは、マクロライトアダプターの取り付けができないため、発光部を取り付けできません。なお、レンズの先端にフィルターとマクロライトアダプターを取り付けてから、発光部を取り付けたときは、写真の周辺部分がケラれることがあります。

フードの使用について

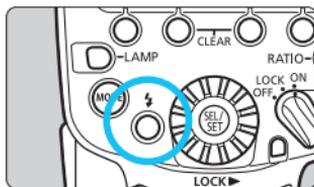
- MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォトに、別売の専用フードを取り付けるときは、レンズにフードを取り付けてから発光部を取り付けてください。
- その他のマクロレンズ使用時は、フードの取り付けはできません。

電源を入れる



1 電源スイッチを〈ON〉にする

- 充電が始まります。
- 充電中は表示パネルに〈**CHARGE**〉が表示されます。充電が完了すると表示が消えます。



2 充電を確認する

- 充電ランプの状態が、消灯→緑色（クイック発光可能）→赤色（フル充電）の順に変わります。
- テスト発光ボタン（充電ランプ）を押すと、テスト発光を行うことができます。

クイック発光機能について

クイック発光は、充電ランプが緑色の状態（フル充電前）でストロボ撮影ができる機能です。カメラのドライブモードが1枚撮影のときに機能しません。発光量はフル発光時の約1/2～1/5になりますが、発光間隔を短くしたいときに有効です。

なお、連続撮影、FEB、マニュアル発光、ワイヤレス増灯撮影時は、クイック発光できません。

オートパワーオフ機能について

電池の消耗を防ぐため、約90秒間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。

- 発光モードが〈TTL〉のときは、クイック発光できません。
- カメラの♯4 / ♯6 / ♯8 / ♯10 / ♯16タイマーが働いているときは、テスト発光できません。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉にすると、ストロボのボタンやダイヤル操作を禁止することができます。ストロボの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。

ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈LOCKED〉が表示されます（ファンクションボタン1～4の上に表示される〈C.Fn〉〈〉なども表示されません）。

表示パネル照明について

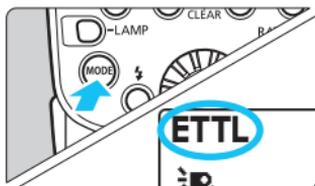
ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが12秒間照明されます。照明中に操作を行うと、照明時間が延長されます。



- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。電池交換時に設定状態を保持したいときは、電源を切り、電池を取り出してから1分以内に電池を交換してください。
- 連続発光により、発光部の温度が上昇しているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 電源スイッチが〈LOCK〉の位置でもテスト発光やフォーカシングランプの点灯／消灯を行うことができます。また、ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルの照明が行われます。
- 連続撮影時にクイック発光を行うことができます（C.Fn-06/p.62）。
- オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます（C.Fn-01/p.61）。
- 外部電源使用時の充電方法を選ぶことができます（C.Fn-12/p.63）。
- 表示パネル照明の設定を変更することができます（C.Fn-22/p.64）。
- 表示パネル照明の色を変更することができます（P.Fn-03/p.65）。

全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉(プログラムAE)、または全自動に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。



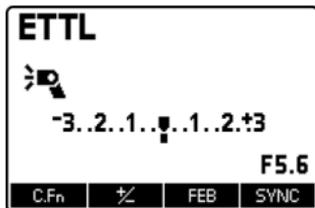
1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈ETTL〉に設定します。
- 〈MASTER〉が表示されていないことを確認します。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内に〈⚡〉が点灯していることを確認します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し撮影されます。
- 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが3秒間点灯します。



- E-TTL II対応のカメラに取り付けたときも、表示パネルには〈ETTL〉と表示されます。
- 調光確認ランプが点灯しなかったときや、カメラの液晶モニターで画像を確認して被写体が暗い(露出アンダーの)ときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。
- 「全自動」は〈A+〉〈□〉〈CA〉の撮影モードを示しています。

撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈Av〉(絞り優先AE)、〈M〉(マニュアル露出)に設定するだけで、E-TTL II/E-TTL 自動調光による本格的なストロボ撮影を行うことができます。

Av	<p>被写界深度を考慮しながら、主被写体だけでなく背景も標準露出したストロボ撮影ができます。</p> <p>任意の絞り数値を設定したいときに選択します。設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度が自動設定されます。暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となるスローシンクロナイズ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出になります。</p> <ul style="list-style-type: none">● 暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、または露出オーバーになります。シャッター速度が点灯するように絞り数値を変更してください。
M	<p>シャッター速度と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。</p> <p>主被写体はストロボ光で標準露出になります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。</p>

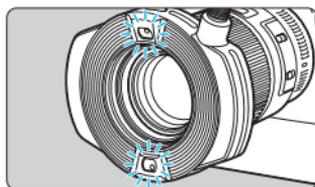
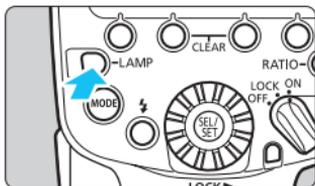
- 〈Tv〉(シャッター優先AE)で、任意のシャッター速度を設定すると、絞り数値が自動設定されます。ただし、絞り数値が任意に設定できないため、おすすめできません。
- 〈DEP〉〈A-DEP〉で撮影したときは、〈P〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

	シャッター速度	絞り数値
P	自動設定 (1/X~1/60秒)	自動設定
Av	自動設定 (1/X~30秒)	手動設定
M	手動設定 (1/X~30秒、Bulb)	手動設定

- 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

フォーカシングランプについて



〈LAMP〉ボタンを押すと、フォーカシングランプが20秒間点灯し、ピント合わせがしやすくなります。もう一度押すと消灯します。

フォーカシングランプは、カメラのシャッターボタンを全押しすると自動的に消灯します。

- フォーカシングランプを近距離で直視すると、視力障害を起こす恐れがあります。
- フォーカシングランプが点灯した状態で撮影すると、露出アンダーになることがあります。必要に応じて露出補正、調光補正を行ってください。
- ストロボ発光禁止モードや動画撮影時など、ストロボが発光しない条件のときは、シャッターボタンを全押ししても、フォーカシングランプは自動的に消灯しません。

- フォーカシングランプの点灯方法を変更することができます (C.Fn-18 / p.64)。
- フォーカシングランプの明るさを調整することができます (P.Fn-01 / p.65)。

モデリング発光について **応用**

カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが1秒間連続発光します。この機能を「モデリング発光」といいます。被写体の影の出かたや、ライティングのバランス確認に有効です。なお、ワイヤレス増灯撮影 (p.44) のときもモデリング発光を行うことができます。



- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は連続20回までにしてください。連続20回発光したときは、10分以上休止してください。
- 連続して20回を超える発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは10分以上休止してください。
- ライブビュー撮影時は、(カメラ側操作による) モデリング発光はできません。
- EOS M2、EOS M、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS Kiss Lite、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50と組み合わせたときは、(カメラ側操作による) モデリング発光はできません。C.Fn-02を1または2に設定して (p.61)、テスト発光ボタンでモデリング発光を行ってください。



テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます (C.Fn-02/p.61)。

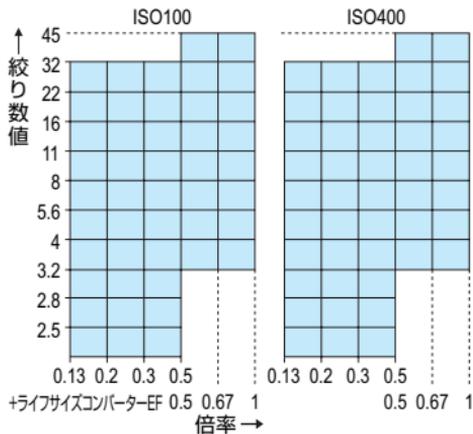
色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOSデジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、**<AWB>** **<⚡>** のときに自動的に働きます。

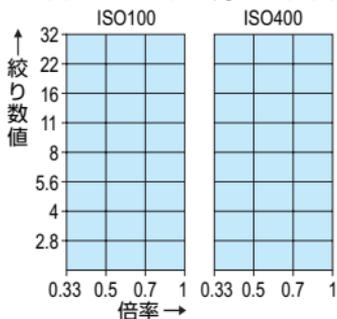
対応カメラについては、カメラ使用説明書の「主な仕様」を参照してください。

調光連動範囲の目安

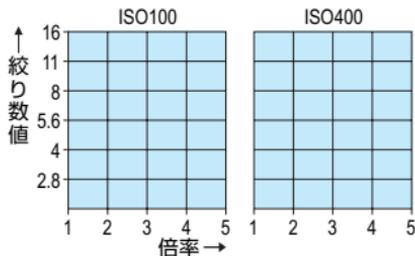
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ



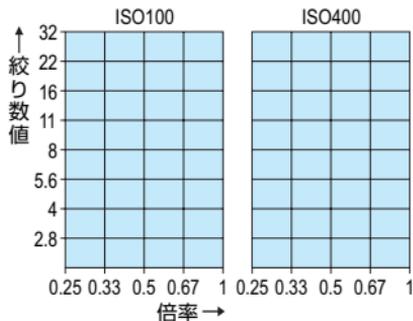
EF100mm F2.8 マクロ
EF100mm F2.8 マクロ USM
EF100mm F2.8L マクロ IS USM



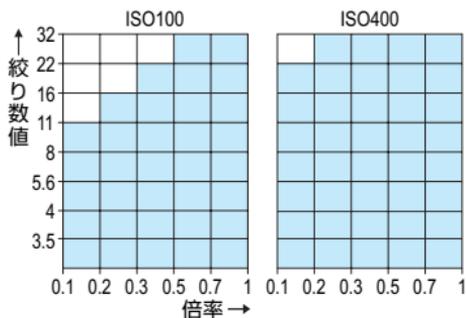
MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト



EF-S60mm F2.8 マクロ USM



EF180mm F3.5L マクロ USM



■ : 調光連動範囲
(両側発光時)

A:B 光量比を設定する 応用

発光部A、Bの発光量の比率（光量比）を変化させたり、発光部A、Bのどちらか片側のみを発光させることで、被写体に陰影をつけた立体感のある写真を撮影することができます。設定できる光量比レベルは、1/2段ステップ・8：1～1：1～1：8（13段階）です。

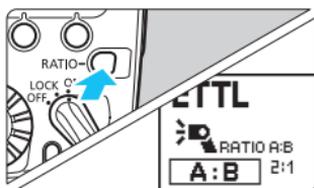


A : B = 4 : 1



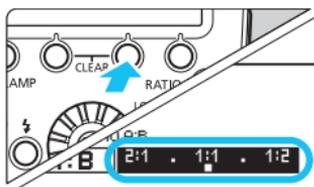
Bのみ発光

A : Bの光量比を設定した発光



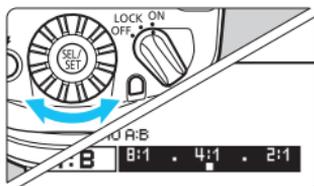
1 <A:B> に設定する

- <RATIO> ボタンを押して、<RATIO A:B> と <A:B> が表示された状態にします。



2 <Gr> ボタンを押す

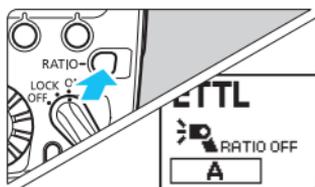
- ファンクションボタン3 <Gr> を押します。
- ➔ 光量比が反転します。



3 光量比を設定する

- <SEL/SET> を回してA : Bの光量比を設定し、<SEL/SET> を押します。

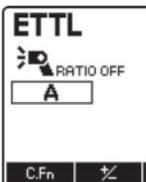
片側発光



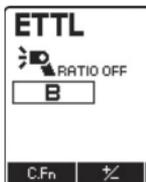
〈**A**〉または〈**B**〉に設定する

- 〈**RATIO**〉 ボタンを押して、〈**RATIO OFF**〉と〈**A**〉または〈**RATIO OFF**〉と〈**B**〉が表示された状態にします。

Aのみ発光



Bのみ発光



 次の機種では光量比制御はできません。同じ光量の両側発光、または片側発光での撮影になります。

EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50

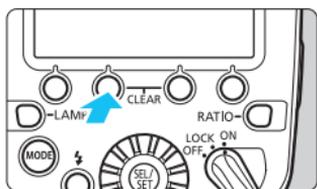
-  ● 光量比の8:1～1:1～1:8は、段数換算で3:1～1:1～1:3（1/2段ステップ）に相当します。
- 光量比設定の詳細は、次のとおりです。

8:1 . 4:1 . 2:1 . 1:1 . 1:2 . 1:4 . 1:8
 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮
 5.6:1 2.8:1 1.4:1 1:1.4 1:2.8 1:5.6

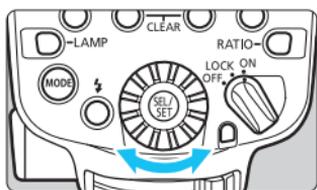
- 〈**A:B**〉 〈**A**〉 〈**B**〉 が表示されていないときは、発光部 A : B が同じ光量で発光します。
- 発光モードが 〈**M**〉 のときは、32～34ページを参照してください。

調光補正 応用

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

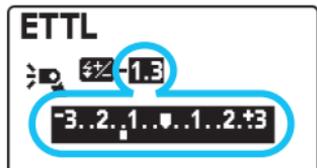


- 1 <  > ボタンまたは <  > を押す
- ファンクションボタン2 <  > または <  > を押します。
 - ➔ <  > が表示され、補正量が反転します。



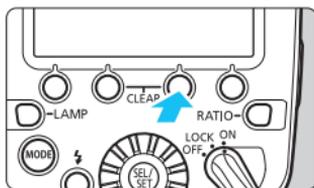
2 補正量を設定する

- <  > を回して補正量を設定し、<  > を押します。
- ➔ 補正量が設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を解除するときは、補正量を「±0」に戻します。



- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- ストロボとカメラの両方で調光補正を行ったときは、ストロボ側の設定が優先されます。
- ファンクションボタン2 <  >、または <  > を押さずに <  > で直接、調光補正量を設定することができます (C.Fn-13/p.63)。

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これを「FEB (Flash Exposure Bracketing)」撮影といいます。設定できる範囲は1/3段ステップ±3段です。



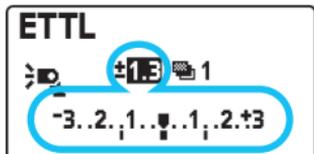
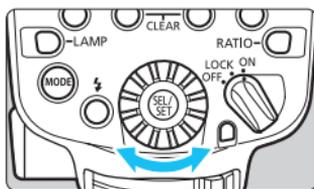
1 < FEB > ボタンを押す

- ファンクションボタン3 < FEB > を押します。
- <  > が表示されます。



2 FEBレベルを設定する

- <  > を回して FEB レベルを設定し、<  > を押します。
- FEBレベルが設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正と併用するときは、調光補正量を中心にしてFEB撮影が行われます。±3段を超えるときは、調光レベルの端が<  > または<  > になります。

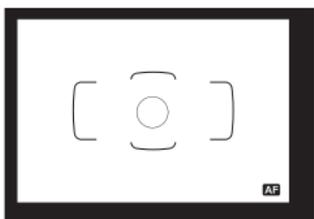


- 3枚撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEB撮影を行うときは、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、充電を確認してから撮影することをおすすめします。
- 調光補正やFEロックと組み合わせて撮影することができます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- 3枚撮影後にFEBが自動的に解除されないようにすることができます (C.Fn-03/p.61)。
- FEBの撮影順序を変更することができます (C.Fn-04/p.62)。

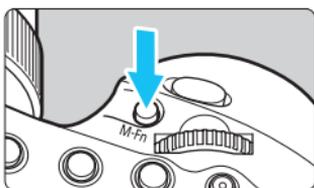
FEL: FEロック 応用

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

表示パネルに **<ETTL>** が表示されている状態で、カメラの **<M-Fn>** ボタンを押します。**<M-Fn>** ボタンのないカメラは、**<★>** (AEロック) または **<FEL>** ボタンを押します。



1 被写体にピントを合わせる



2 <M-Fn> ボタンを押す (Ⓜ16)

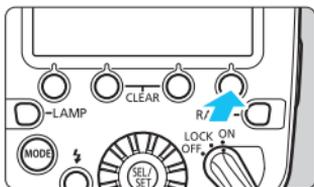
- 被写体をファインダーの中央において **<M-Fn>** ボタンを押します。
- ➔ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な発光量を記憶します。
- ➔ ファインダー内に「**FEL**」が0.5秒間表示されます。
- **<M-Fn>** ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な発光量が記憶されます。



- FEロックを行ったときに適切な露出が得られないときは、ファインダー内の **<L>** が点滅します。被写体に近づいたり絞りを開いて、再度FEロックを行ってください。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げて再度FEロックする方法もあります。
- ファインダーの視野に対して被写体が小さいときは、FEロックの効果が得られないことがあります。

ハイスピードシンクロ 応用

ハイスピードシンクロ機能を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。日中の屋外などで、絞り優先AE（Av）モードで被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。



を表示させる

- ファンクションボタン4 < **SYNC** > を押して、 を表示させます。
- ファインダー内に <  > が点灯していることを確認します。

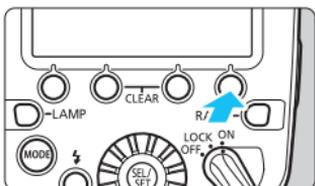


 ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。

- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度以下に設定したときは、ファインダー内に <  > は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン4 < **SYNC** > を押して <  > を消します。

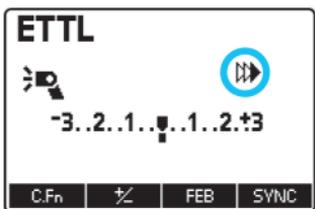
▶▶ 後幕シンクロ 応用

低速シャッターで後幕シンクロを行うと、動いている被写体の光源の軌跡を自然な感じで写すことができます。撮影が終了する（シャッターが閉じる）直前にストロボが発光します。



▶▶ を表示させる

- ファンクションボタン4 〈SYNC〉を押して、▶▶ を表示させます。



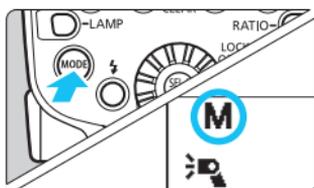
- カメラの撮影モードを〈B〉（バルブ撮影）にすると、後幕シンクロ撮影がしやすくなります。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン4 〈SYNC〉を押して▶▶ を消します。
- 発光モードが〈E TTL〉のときは、ストロボが2回発光します。1回目の発光は、発光量を決めるためのプリ発光ですので、故障ではありません。
- ワイヤレス増灯撮影のときは（p.44）、後幕シンクロはできません。

M: マニュアル発光 応用

フル発光 (1/1) から 1/128 発光までの範囲で、発光量を 1/3 段ステップで設定することができます。「発光部 A、B とも同じ光量で発光」、「発光部 A と B にそれぞれ発光量を設定して発光」、「片側 (A または B のみ) 発光」の 3 通りの方法で撮影することができます。

カメラの撮影モードを **Av** または **M** に設定することをおすすめします。また、あらかじめテスト撮影を行って露出を確認してください。

発光部 A、B とも同じ光量で発光

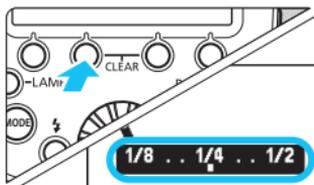


1 発光モードを **M** にする

- **MODE** ボタンを押して、**M** に設定します。

2 **RATIO** 表示を消す

- **RATIO** ボタンを押して、**RATIO** が表示されていない状態にします。



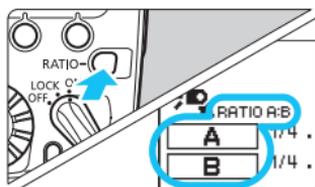
3 発光量を設定する

- ファンクションボタン 2 **1/2** または **1/4** を押します。
→ 発光量レベルが反転します。
- **1/8** を回して発光量を設定し、**1/2** を押します。

- ハイスピードシンクロ設定時は、設定範囲が 1/1 ~ 1/64 になります。
- 発光量の設定が同じでも、両側発光時と片側発光時ではガイドナンバーが異なります (p.75)。

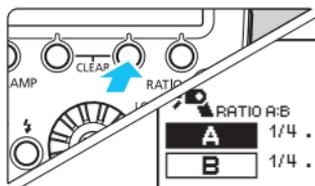
ファンクションボタン 2 **1/2**、または **1/4** を押さずに **1/8** で直接、発光量を設定することができます (C.Fn-13/p.63)。

発光部AとBにそれぞれ発光量を設定して発光



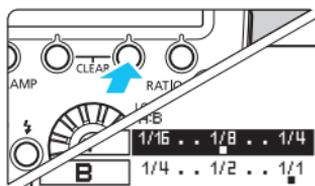
1 < A > < B > に設定する

- < RATIO > ボタンを押して、< RATIO A:B > と < A > < B > が表示された状態にします。



2 発光部を選ぶ

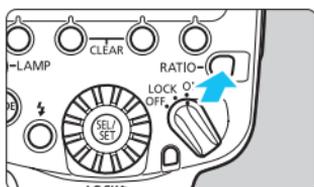
- ファンクションボタン3 < Gr > または < ● > を押し、< ● > を回して発光部AまたはBを選びます。



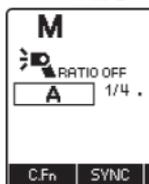
3 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 < *% > または < ● > を押します。
- < ● > を回して発光量を設定し、< ● > を押します。
- 手順2、3を繰り返して、発光部AとBの発光量を設定します。

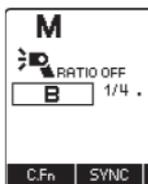
片側発光



Aのみ発光

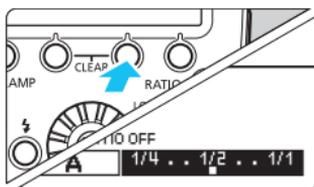


Bのみ発光



1 < **A** > または < **B** > に設定する

- < **RATIO** > ボタンを押して、< **RATIO OFF** > と < **A** > または < **RATIO OFF** > と < **B** > が表示された状態にします。



2 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 <  > または <  > を押します。
- <  > を回して発光量を設定し、<  > を押します。

ストロボメータードマニュアル撮影について

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近い撮影で有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードを〈M〉にします。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

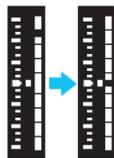
- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内の中央部スポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈M-Fn〉または〈*〉〈FEL〉ボタンを押す (☉16)

- ➔ ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ➔ ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。

5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。



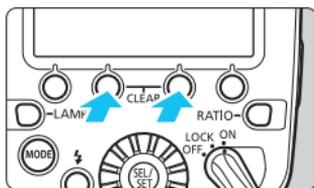
6 撮影する

- 標準反射板を取り除いて撮影します。

 ストロボメータードマニュアル撮影は、EOS-1Dシリーズ以外ではできません。

ストロボ設定初期化^{応用}

ストロボの撮影機能やワイヤレス増灯撮影の設定を、初期状態に戻すことができます。



ファンクションボタン2と3を同時に2秒以上押す

- ストロボの設定が初期化され、通常撮影、発光モードが〈ETTL〉になります。

 設定初期化を行っても、ワイヤレス増灯撮影時の通信チャンネル、およびカスタム機能とパーソナル機能の設定 (p.58) は解除されません。

2

カメラ操作による ストロボの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。



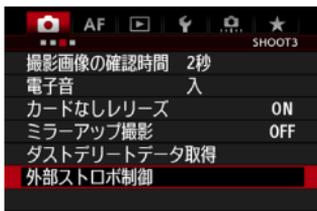
カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを**P/Tv/Av/M/B**（応用撮影ゾーン）にしてください。

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定



1 [外部ストロボ制御] を選ぶ

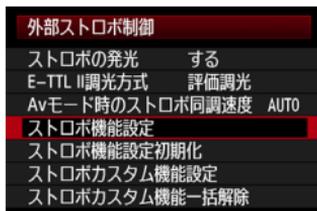
- [外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] を選びます。

2 [ストロボ機能設定] を選ぶ

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] を選びます。
- 設定画面が表示されます。

3 機能を設定する

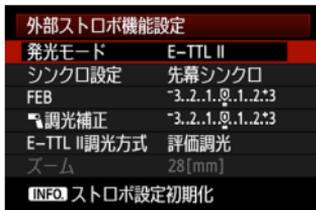
- カメラにより設定画面や表示される項目が異なります。
- 項目を選び、機能を設定します。



表示例1



表示例2



ストロボ機能設定画面で設定できる内容

カメラの [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面から、設定できる主な機能は次のとおりです。使用するカメラ、発光モードなどの設定により、設定できる内容が異なります。詳しくは次ページを参照してください。

ストロボの発光	する／しない
E-TTL II 調光方式	評価調光／平均調光
Avモード時のストロボ同調速度	
発光モード	E-TTL II (自動調光) / マニュアル発光
シンクロ設定	先幕シンクロ／後幕シンクロ／ハイスピードシンクロ
調光補正	
FEB	
(ストロボ機能) 設定初期化	

● 2014年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラ

カメラのストロボ機能設定画面から、すべての機能を設定することができます。

● 2014年上期までに発売されたEOSデジタルカメラ

C.Fn-15-0の設定で、カメラのストロボ機能設定画面から「光量比制御」および「ワイヤレス増灯撮影」の設定を行うことはできません。ストロボを操作して設定してください。

詳しい制限事項（設定できない機能）については、42ページを参照してください。それ以外の機能は画面から設定することができます。

 ストロボ側で調光補正を行ったときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

-  ● [ストロボの発光] [E-TTL II 調光方式] は、前ページの手順2または手順3で表示されます（カメラにより異なります）。
- [Avモード時のストロボ同調速度] が表示されないときは、カメラのカスタム機能で設定することができます。

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは [する] に設定します。

● E-TTL II調光方式

通常は標準的なストロボ露出が得られる [評価調光] に設定します。[平均調光] に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

● Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE (Av) モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● 発光モード

撮影意図に応じて [E-TTL II] [マニュアル発光] を選択することができます。

● シンクロ設定

ストロボの発光タイミング/方式を [先幕シンクロ] [後幕シンクロ] [ハイスピードシンクロ] の中から選ぶことができます。通常のストロボ撮影を行うときは [先幕シンクロ] に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

● FEB

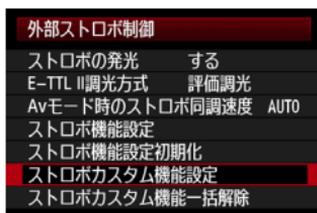
ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。設定できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

● (ストロボ機能) 設定初期化

ストロボの設定内容を初期状態に戻すことができます。

ストロボカスタム機能設定

カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定することができます。なお、表示される内容は使用するカメラにより異なります。C.Fn-22が表示されない場合は、ストロボを操作して設定してください。カスタム機能については、61～64ページを参照してください。



1 [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

- [ストロボカスタム機能設定] または [外部ストロボカスタム機能設定] を選びます。
- ➔ ストロボのカスタム機能設定画面が表示されます。



2 カスタム機能を設定する

- カスタム機能番号を選び、機能を設定します。
- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、手順1で [ストロボカスタム機能一括解除] または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選びます。

- ❗
- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X70では、[ストロボカスタム機能一括解除] または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選んでも、C.Fn-22の設定は解除されません。60ページのカスタム機能一括解除を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます。
 - パーソナル機能 (P.Fn/p.65) は、カメラのメニュー画面から設定／一括解除することはできません。ストロボを操作して設定してください。

ストロボ機能設定画面から設定できない機能について

2014年上期までに発売されたEOSデジタルカメラと組み合わせたときは、カメラのストロボ機能設定画面（p.38）から、下表に示す一部の機能は設定できません。画面から設定できないときは、ストロボを操作して設定してください。

● カスタム機能C.Fn-15-0設定時

E-TTL自動調光

カメラから設定できない機能	ストロボ操作による設定
A：B光量比（光量比制御）	25ページ
ワイヤレス増灯撮影 ・通信チャンネル ・A：B光量比（光量比制御） ・スレーブCの調光補正量	48～50ページ

マニュアル発光

カメラから設定できない機能	ストロボ操作による設定
A, B発光時の発光部Bの発光量	33ページ
ワイヤレス増灯撮影 ・通信チャンネル ・発光部Bの発光量 ・スレーブCの発光量	48、55～56ページ

● カスタム機能C.Fn-15-1設定時

ストロボ機能設定画面からワイヤレス増灯撮影など、すべての機能を設定することができます。

 C.Fn-15-1はワイヤレス増灯撮影用の設定のため、1に設定すると片側発光（p.26）はできません。

 カスタム機能C.Fn-15（マクロ・ワイヤレス制御）については、63ページを参照してください。

3

ワイヤレス増灯撮影

この章では、ワイヤレススレーブ機能を備えたEXシリーズスピードライト（別売）を使用して、光通信によるワイヤレス増灯撮影を行う方法について説明しています。

ワイヤレス増灯撮影に必要なアクセサリについては、68ページのシステム図を参照してください。

 カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを**P/Tv/Av/M/B**（応用撮影ゾーン）にしてください。

 カメラに取り付けたMR-14EX IIを「マスター」、ワイヤレス制御されるスピードライト（外部ストロボ）を「スレーブ」と呼んでいます。

ワイヤレス増灯撮影

光通信によるワイヤレススレーブ機能を備えたEXシリーズスピードライトを使用すると、ワイヤレス制御による増灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

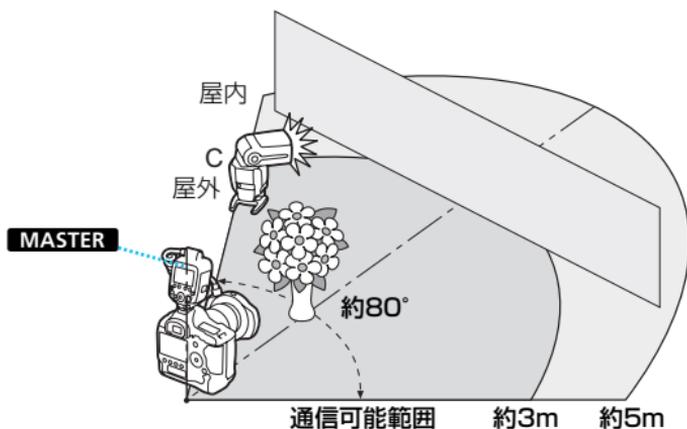
カメラに取り付けたMR-14EX II (マスター) の設定内容が、ワイヤレス制御されるスレーブに自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブを操作する必要はありません。マスターを〈ETTL〉に設定するだけで、E-TTL II/E-TTL自動調光によるワイヤレス増灯撮影を行うことができます。

配置と作動範囲 (ワイヤレス増灯撮影例)

●スレーブCを追加した増灯撮影 (p.49)

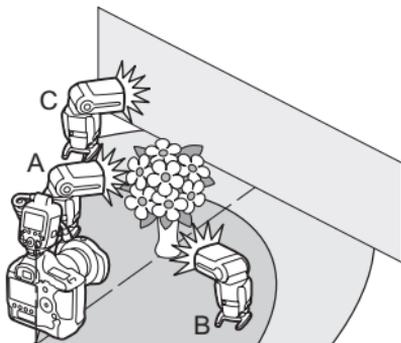
マスターの発光部A、Bに、発光グループCに設定したスレーブ(スレーブC)を追加した増灯撮影を行うことができます。

スレーブCは、発光グループC単独で標準露出になるように自動制御されるため、被写体の影を消したり、アクセントライトとして使えます。



●スレーブA, B, Cを追加した応用増灯撮影 (p.53)

スレーブCだけでなく、さらにスレーブAとBを追加した増灯撮影です。スレーブAは発光部Aと、スレーブBは発光部Bとひとまとまりのグループ（1つのストロボ）として制御されて発光します。

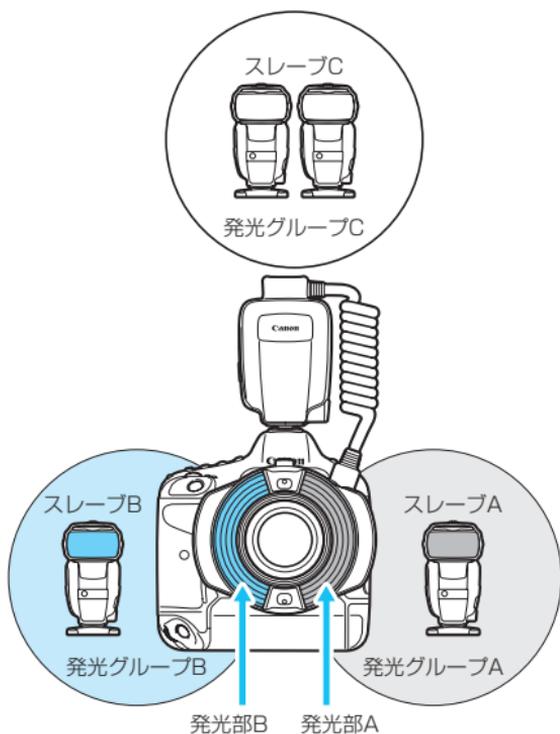


- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 撮影する前に、テスト発光 (p.18) やテスト撮影を行ってください。
- 通信の妨げになるため、マスターとスレーブの間に障害物を置かないでください。

- スレーブストロボに付属しているミニスタンドを使用して、スレーブの受信部をマスターに向けて配置します。
- 室内で撮影するときは、通信が壁面反射することにより、多少ラフな配置でも作動することがあります。

グループ制御について

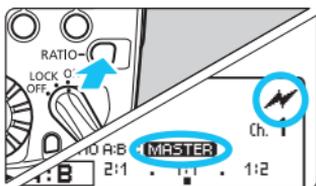
スレーブAは発光部A、スレーブBは発光部Bとひとまとまりのグループ（1つのストロボ）として制御されて発光します。スレーブCを複数台にすることもできます。なお、増灯するスレーブA、B、Cに台数制限はありません。



ワイヤレス設定

E-TTL II/E-TTL自動調光によるワイヤレス増灯撮影を行うときは、以下の手順でマスターとスレーブの設定を行います。

マスター設定



〈〉と〈**MASTER**〉を表示させる

- 〈**RATIO**〉 ボタンを押して、〈〉（光通信ワイヤレス）と〈**MASTER**〉が表示された状態にします。

- C.Fn-15-0設定時は (p.63)、〈**RATIO A:B C**〉と〈〉〈〉が表示されていることを確認します (p.49)。
- C.Fn-15-1設定時は (p.63)、〈**RATIO**〉 ボタンを押して以下の中から発光方法を選びます (p.53)。
 - ・ 〈**RATIO OFF**〉と〈〉
 - ・ 〈**RATIO A:B**〉と〈〉
 - ・ 〈**RATIO A:B C**〉と〈〉〈〉

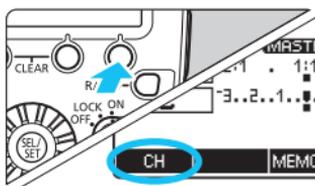
スレーブ設定

スレーブ機能を備えたEXシリーズスピードライトの使用説明書を参照して、スレーブの発光グループ (A, B, C) を設定してください。

 通常のストロボ撮影を行うときは、〈**RATIO**〉 ボタンを押してマスターの設定を解除してください。

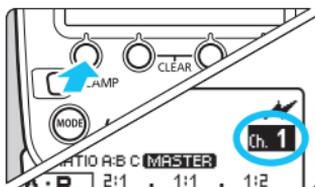
通信チャンネルの設定

他の人が使用している光通信によるワイヤレスシステムと混信しないように、通信チャンネルを切り換えることができます。チャンネルは、マスター、スレーブとも同じ番号に設定します。



1 ファンクションボタン4を押す

- ファンクションボタン4 〈MENU*〉を押して、ファンクションボタン1の位置に 〈CH〉 を表示させます。



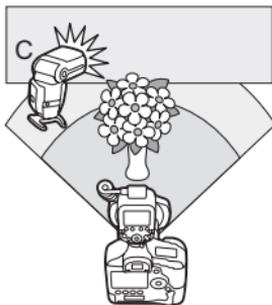
2 チャンネルを設定する

- ファンクションボタン1 〈CH〉 を押します。
- 〈◀▶〉 を回してCh.1~4の中から選び、〈ENTER〉 を押します。

⚠ マスターとスレーブの通信チャンネルが異なると、スレーブは発光しません。ともに同じ番号に設定してください。

📖 スレーブの通信チャンネルの設定方法については、スレーブ機能を備えたEXシリーズスピードライトの使用説明書を参照してください。

ETTL: スレーブCを追加した増灯撮影



発光部A, BにスレーブCを追加した増灯撮影です。

1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈MODE〉 ボタンを押して、〈ETTL〉に設定します。



2 〈A:B〉 〈C〉 に設定する

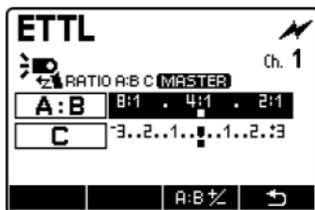
- 〈RATIO〉 ボタンを押して 〈RATIO A:B C〉 と 〈A:B〉 〈C〉 を表示させます。
- 〈〉 〈MASTER〉 が表示されていることを確認します。

3 通信チャンネルを確認する

- マスターとスレーブのチャンネルが異なるときは、同じ番号に設定します (p.48)。

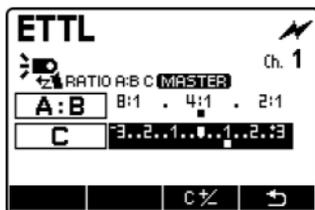
4 スレーブCに設定して配置する

- スレーブの発光グループをCに設定し、44ページに示した範囲内に配置します。



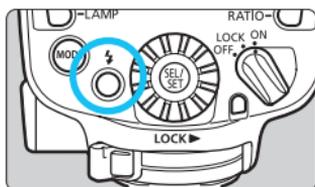
5 A : Bの光量比を設定する

- ファンクションボタン3 < Gr > を押し、< ⦿ > を回して < A:B > を選び、< ⦿ > を押します。
- < ⦿ > を回してA : Bの光量比を設定し、< ⦿ > を押します。



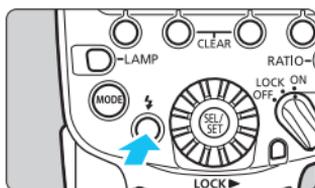
6 スレーブCの調光補正量を設定する

- < ⦿ > を回して < C > を選び、< ⦿ > を押します。
- < ⦿ > を回して補正量を設定し、< ⦿ > を押します。



7 充電を確認する

- マスターの充電ランプが点灯していることを確認します。
- スレーブの充電が完了していることを確認します。



8 作動確認をする

- マスターのテスト発光ボタンを押します。
- スレーブCが発光します。発光しないときは、作動範囲内に配置されているか確認してください。

9 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
- 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが3秒間点灯します。

- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 次の機種では、〈ETTL〉モード設定時に（C.Fn-15-0の設定で）スレーブCを追加したワイヤレス増灯撮影はできません。なお、〈M〉モード設定時は、すべてのAタイプカメラ（p.2）でワイヤレス増灯撮影を行うことができます。
EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50
- スレーブの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でスレーブが誤動作して、意図せずに発光することがあります。
- C.Fn-15-0設定時に、スレーブA、Bを配置した状態で撮影やテスト発光を行うと、スレーブA、Bが発光することがあります。スレーブA、Bの電源を〈OFF〉にしてください。

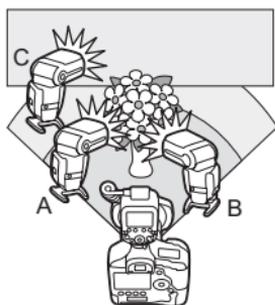
- ワイヤレス増灯撮影時もモデリング発光を行うことができます（p.23）。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターをテスト発光させると、スレーブの電源が入ります。ただし、カメラの $\odot 4 / \odot 6 / \odot 8 / \odot 10 / \odot 16$ タイマーが働いているときは、テスト発光はできません。

ワイヤレス機能を応用した増灯撮影

本システムでは、マスターで設定したストロボ調光補正などの内容が、そのままスレーブに自動設定されます。スレーブを操作する必要はありません。以下のワイヤレス増灯撮影を、通常のストロボ撮影と同じ操作で行うことができます。

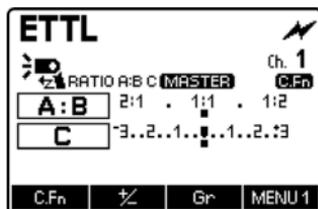
- ・ストロボ調光補正 ( / p.27)
- ・ハイスピードシンクロ ( / p.30)
- ・FEB ( / p.28)
- ・マニュアル発光 (p.32、55)
- ・FE ロック (p.29)

ETTL: スレーブA, B, Cを追加した応用増灯撮影



C.Fn-15-1に設定すると(p.63)、スレーブCだけでなく、スレーブA, Bを追加した増灯撮影を行うことができます。発光制御の概要については、46ページの『グループ制御について』を参照してください。

また、スレーブの発光グループの設定に関係なく、発光部A, Bとスレーブを同じ光量で発光させる増灯撮影や、スレーブA, Bだけを追加した増灯撮影を行うこともできます (p.54)。



1 <A:B> <C> に設定する

- 発光モードが<ETTL>に設定されていることを確認します。
- <RATIO> ボタンを押して<RATIO A:B C>と<A:B> <C>を表示させます。
- <Fn> <MASTER> が表示されていることを確認します。

2 スレーブA, B, Cに設定して配置する

- すべてのスレーブがマスターと同じ通信チャンネルに設定されているか確認してください。
- 追加するスレーブをそれぞれA, B, Cに設定し配置します。

3 撮影する

- 『スレーブCを追加した増灯撮影』を参照し (p.49)、発光グループ (発光部 +スレーブ) A : Bの光量比と、スレーブCの調光補正量を設定して撮影します。

-  発光部A, Bとスレーブを同じ光量で発光させるときは、手順1で〈**RATIO OFF**〉と〈**ALL**〉に設定します。スレーブの発光グループの設定はA, B, Cのどれでも構いません。
- スレーブA, Bだけを追加するときは、手順1で〈**RATIO A:B**〉と〈**A:B**〉に設定します。

M: 発光量を設定したワイヤレス増灯撮影

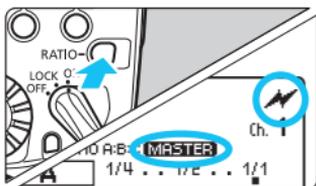
マニュアル発光によるワイヤレス増灯撮影です。発光グループごとに発光量を設定して撮影することができます。設定はすべてマスター側で行います。

1 発光モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈M〉に設定します。

2 発光グループを設定する

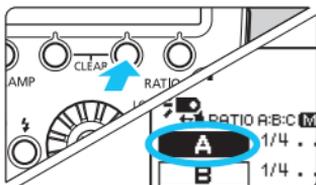
- 〈RATIO〉ボタンを押して、〈〉（光通信ワイヤレス）と〈MASTER〉が表示された状態にします。

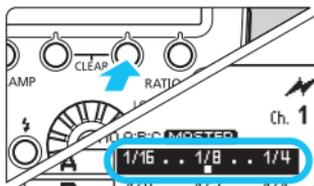


- C.Fn-15-0設定時は (p.63)、〈RATIO A:B:C〉と〈〉〈〉〈〉が表示されていることを確認します。スレーブCを追加したワイヤレス増灯撮影を行うことができます。
- C.Fn-15-1設定時は (p.63)、〈RATIO〉ボタンを押して以下の中から発光方法を選びます。スレーブA, B, Cを追加したワイヤレス増灯撮影を行うことができます。
 - ・ 〈RATIO OFF〉と 〈〉
 - ・ 〈RATIO A:B〉と 〈〉 〈〉
 - ・ 〈RATIO A:B:C〉と 〈〉 〈〉 〈〉

3 発光グループを選ぶ

- 手順2で 〈〉 〈〉 または 〈〉 〈〉 〈〉 を選んだときは、ファンクションボタン3 〈Gr〉 または 〈〉 を押し、〈〉 を回して発光量を設定するグループを選びます。





4 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 〈***%**〉または〈**☉**〉を押します。
- 〈**☉**〉を回して発光量を設定し、〈**☉**〉を押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

5 撮影する

- 各グループが設定した発光量で発光します。

! C.Fn-15-0設定時に、スレーブA、Bを配置した状態で撮影やテスト発光を行うと、スレーブA、Bが発光することがあります。スレーブA、Bの電源を〈OFF〉にしてください。

! C.Fn-15-1設定時に〈**ALL**〉に設定したときは、スレーブの発光グループの設定はA、B、Cのどれでも構いません。すべてのグループが設定した発光量で発光します。

4

ストロボのカスタマイズ

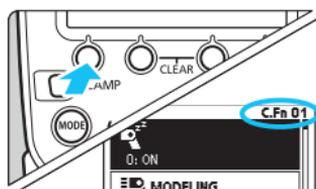
この章では、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) によるストロボのカスタマイズなどについて説明しています。

 カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを**P/Tv/Av/M/B**（応用撮影ゾーン）にしてください。

C.Fn/P.Fn: カスタム/パーソナル機能の設定方法

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、MR-14EX II特有のカスタマイズ機能です。

C.Fn: カスタム機能

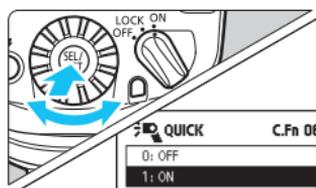


1 カスタム機能画面にする

- 画面が表示されるまで、ファンクションボタン1 < C.Fn > を長く押しします。
- ➔ カスタム機能画面が表示されます。

2 設定する項目を選ぶ

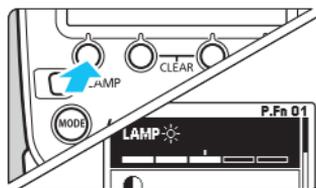
- < 〇 > を回して設定する項目(番号)を選びます。



3 設定内容を変更する

- < 〇 > を押しします。
- ➔ 設定項目が表示されます。
- < 〇 > を回して希望する設定内容を選び、< 〇 > を押しします。
- ファンクションボタン4 < 〻 > を押しすると、撮影準備状態に戻ります。

P.Fn: パーソナル機能



1 パーソナル機能画面にする

- カスタム機能の手順1の操作を行ったあと、ファンクションボタン1 < P.Fn > を押しします。
- ➔ パーソナル機能画面が表示されます。

2 機能を設定する

- カスタム機能の手順2、3と同じ操作でパーソナル機能を設定します。

カスタム機能一覧

番号	項目		参照ページ
C.Fn-01		オートパワーオフ	p.61
C.Fn-02	 MODELING	モデリング発光	
C.Fn-03	 AUTO CANCEL	FEB自動解除	
C.Fn-04		FEB撮影順序	p.62
C.Fn-05	MODE	調光方式	
C.Fn-06		連続撮影時のクイック発光	p.63
C.Fn-07		自動調光時のテスト発光	
C.Fn-12		外部電源使用時の充電	
C.Fn-13		調光補正の設定方法	p.64
C.Fn-15	WIRELESS	マクロ・ワイヤレス制御	
C.Fn-18	LAMP	マクロ・フォーカシングランプ点灯	
C.Fn-22		表示パネルの照明	

パーソナル機能一覧

番号	項目		参照ページ
P.Fn-01	LAMP 	フォーカシングランプの明るさ	p.65
P.Fn-02		表示パネルの濃度	
P.Fn-03		表示パネル照明の色	

 ファンクションボタン1 (**C.Fn**) を長く押してもカスタム機能の画面が表示されないときは、カメラの電源を **OFF** にするか、ストロボをカメラから取り外した状態で操作してください。

カスタム機能 / パーソナル機能一括解除

カスタム機能の画面で、ファンクションボタン2〈**CLEAR**〉を押して、ファンクションボタン1〈**OK**〉を押すと、設定されているカスタム機能を解除することができます。

また、パーソナル機能の画面で同じ操作を行うと、設定されているパーソナル機能を解除することができます。

 カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定したときに、C.Fn-22が表示されない場合は、58ページの操作で設定してください。

 カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定 / 一括解除することができます (p.41)。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-01: (オートパワーオフ)

ストロボを操作しないで約90秒間放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。

0 : ON (入)

1 : OFF (切)



連続発光などにより発光部の温度が上昇しているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

C.Fn-02: MODELING (モデリング発光)

0 :  (する : 絞り込みボタン)

カメラの絞り込みボタンを押すとモデリング発光します。

1 :  (する : テスト発光ボタン)

ストロボのテスト発光ボタンを押すとモデリング発光します。

2 :  (両方のボタンで発光する)

カメラの絞り込みボタン、またはストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

3 : OFF (しない)

モデリング発光を禁止します。



カメラの  /  /  /  /  タイマーが動いているときは、テスト発光ボタンによるモデリング発光はできません。

C.Fn-03: AUTO CANCEL (FEB自動解除)

FEBで3枚撮影したあと、FEBを自動解除するかどうかを設定することができます。

0 : ON (する)

1 : OFF (しない)

C.Fn-04: (FEB撮影順序)

FEB撮影時の 0：補正なし、－：マイナス補正（暗く）、＋：プラス補正（明るく）の撮影順序を変更することができます。

0：0→-→+

1：-→0→+

C.Fn-05: MODE (調光方式)

ストロボ撮影時の自動調光方式を変更することができます。

0：E-TTL II/E-TTL

1：TTL

- EOS デジタルカメラ、およびEOS Kiss 7 使用時は、1 に設定しないでください。カメラの機種により発光しなかったり常時フル発光になるなど、調光制御が正しく行われません。また、ワイヤレス増灯撮影ができなくなります。
- カメラのメニュー画面から設定したときに [2：外部調光オート] [3：外部調光マニュアル] が灰色で表示されることがありますが、選択できません。

- 1 は A タイプのEOS フィルムカメラで TTL 自動調光で撮影したいときや、B タイプのEOS フィルムカメラを使用するときに設定します。
- B タイプカメラ使用時に 0 に設定しても、E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影はできません。

C.Fn-06: QUICK (連続撮影時のクイック発光)

連続撮影時にクイック発光（充電ランプが緑色の状態で発光）を行うかどうかを設定することができます。

0：OFF (しない)

1：ON (する)

- 連続撮影時にクイック発光 (p.18) を行うと、発光量が低下するため露出アンダーになりやすくなります。撮影間隔を短くしたい場合以外は、1 に設定しないことをおすすめします。

C.Fn-07:  TEST (自動調光時のテスト発光)

E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光モードでテスト発光を行うときの発光量を変更することができます。

0: 1/32 (1/32発光)

1: 1/1 (フル発光)

C.Fn-12:  (外部電源使用時の充電)

0:   (ストロボ本体と外部電源)

内部電源と外部電源を使用した並列充電を行います。

1:  (外部電源のみ)

ストロボを制御するために内部電源も必要ですが、ストロボが発光するための充電は外部電源のみで行うため、内部電源の消耗を抑えることができます。

C.Fn-13:  (調光補正の設定方法)

0:   (ボタン+ダイヤル)

1:  (ダイヤルで直接設定)

〈〉 ボタンを押さずに、直接 〈〉 を回して調光補正や発光量の設定を行うことができます。

C.Fn-15: WIRELESS (マクロ・ワイヤレス制御)

0: C (スレープC)

ワイヤレス増灯撮影時に、発光グループCに設定されたスレープをワイヤレス制御することができます。

1: ALL (スレープA, B, C)

ワイヤレス増灯撮影時に、発光グループCに設定したスレープだけでなく、発光グループAとBに設定したスレープを、マスターの発光部A, Bにそれぞれ増灯してグループ発光させることができます。



1設定時は片側発光はできません。

C.Fn-18 : LAMP (マクロ・フォーカシングランプ点灯)

0 : LAMP (フォーカシングランプボタン)

〈LAMP〉ボタンを押すとフォーカシングランプが点灯/消灯します。

1 : x2 (シャッターボタン半押し2回)

シャッターボタンの半押しを素早く2回行くと(ダブルクリックすると)、フォーカシングランプが点灯/消灯します。撮影時に両手がふさがっているときなどに有効です。〈LAMP〉ボタンで点灯/消灯を行うこともできます。

- 1 設定時にAFでピント合わせを行うときは、シャッターボタンの押し方に注意してください。フォーカシングランプが不用意に点灯することがあります。
- EOS D60、EOS D30と組み合わせたときは、シャッターボタンをダブルクリックしても正しく動作しません。〈LAMP〉ボタンで点灯/消灯を行ってください。

C.Fn-22 : (表示パネルの照明)

ボタン、ダイヤルを操作すると表示パネルの照明が行われます。この照明の設定を変更することができます。

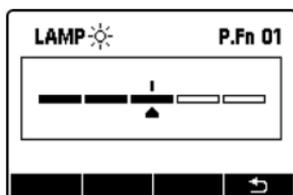
0 : 12sec (12秒間照明)

1 : OFF (照明しない)

2 : ON (常時照明)

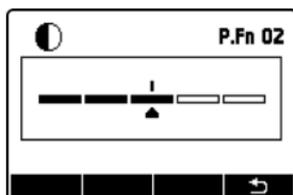
P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01: LAMP☀️ (フォーカシングランプの明るさ)



フォーカシングランプの明るさを5段階で調整することができます。

P.Fn-02: 🌑 (表示パネルの濃度)



表示パネルの表示濃度を5段階で調整することができます。

P.Fn-03: 🗨️☀️ (表示パネル照明の色)

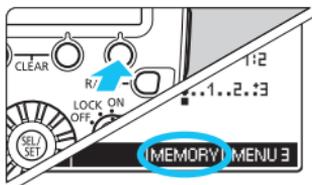
表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0 : GREEN (緑)

1 : ORANGE (オレンジ)

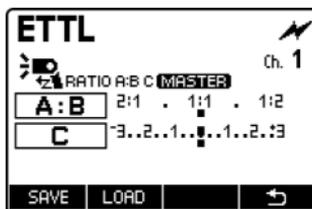
メモリー機能

設定した内容をストロボに保存したり、呼び出すことができます。
〈RATIO〉ボタンを押してワイヤレス増灯撮影に設定したときや、通常撮影でも光量比制御、片側発光に設定したときなど、画面に〈MEMORY*〉が表示されているときにメモリー機能を使うことができます。



1 ファンクションボタン4を押す

- ファンクションボタン4 〈MEMORY*〉を押して、ファンクションボタン3の位置に〈MEMORY〉を表示させます。



2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3 〈MEMORY〉を押します。

保存

- ファンクションボタン1 〈SAVE〉を押します。
- 設定内容が保存（記憶）されます。

呼び出し

- ファンクションボタン2 〈LOAD〉を押します。
- 保存したときの設定内容になります。

- カスタム機能はC.Fn-15の設定のみ保存されます。パーソナル機能の設定は保存されません。
- 複数の設定は保存できません。再度保存を行うと上書き保存されます。

5

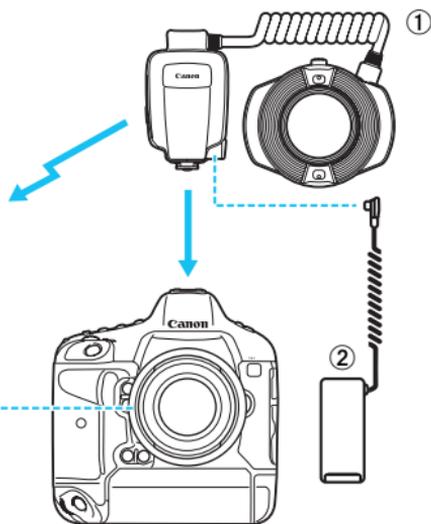
資料

この章では、ストロボシステムやよくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせについて説明しています。

MR-14EX IIのシステム

ワイヤレスストロボ撮影

スレーブ機能を備えたスピードライト



① マクロリングライトMR-14EX II

② コンパクトバッテリーパックCP-E4

単3形電池を8本使用する外部電源です。

③ 光通信ワイヤレススレーブ機能を備えたスピードライト

600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、430EX III-RT/430EX III、430EX II、430EX、420EX、320EX、270EX II

④ マクロライトアダプター

発光部をレンズに取り付けるためのアダプターです (p.16)。

- 外部電源はコンパクトバッテリーパックCP-E4を使用してください。キャノン製以外の外部電源を使用すると、故障の原因になることがあります。
- ③の中で発光グループ (A,B,C) の切り換え機能を備えていないスピードライトを使用したときは、ワイヤレス増灯撮影時にスレーブAとして使用できます (スレーブB,Cとしては使用できません)。

温度上昇による発光制限について

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行うと、発光部の温度が上昇することがあります。繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、自動的に発光制限が行われます。発光制限中は、温度上昇を表す警告表示が行われ、発光間隔が強制的に約8～15秒になります。

温度上昇警告

ストロボ内部の温度が上昇すると、2段階で警告表示が行われます。

表示	レベル1 (発光間隔：約8秒)	レベル2 (発光間隔：約15秒)
マーク		
表示パネル照明	赤色（点灯）	赤色（点滅）

連続発光回数と休止時間

警告表示までの連続発光回数と、通常のストロボ撮影ができるようになるまでに必要な休止時間は、次のとおりです。

機能	警告表示（レベル1）までの連続発光回数（目安）	必要休止時間（目安）
連続発光*	48回以上	10分以上
モデリング発光（p.23）		

* フル発光時

- レベル1の警告が表示されていなくても、発光部の温度が上昇し始めているときは、発光間隔が長くなります。
- レベル2の警告が表示されたときは、15分以上休止してください。
- 発光回数に関する注意については、12ページ（連続発光）、23ページ（モデリング発光）を参照してください。
- 連続発光やモデリング発光を行った直後は、発光部や電池に触れないでください。やけどの原因になります。発光部を取り外したり、電池を交換するときは、温度が低くなっていることを確認してから行ってください。
- C.Fn-22-1 設定時は（p.64）、発光部の温度が上昇しても、表示パネルの赤色照明による警告表示は行われません。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

● 通常撮影

電源が入らない

- 電池が正しい向きに入っているか、確認してください (p.14)。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください (p.14)。
- 新しい電池に交換してください。
- 外部電源 (p.68) を使用するときも、ストロボ本体に電池を入れてください。

ストロボが発光しない

- 取り付け脚をアクセサリシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.15)。
- 30秒たっても **CHARGE** の表示が消えないときは、電池を交換してください (p.14)。
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点 (p.9) を乾いた布などで拭いてください。

電源が勝手に切れる

- ストロボのオートパワーオフ機能が働いています。シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押してください (p.18)。

露出アンダー／オーバーになる

- 画面内に反射率の高いものがあるときは、FEロックを行ってください (p.29)。
- 主被写体が暗い／明るいときは、調光補正を行ってください (p.27)。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。被写体に近づいて撮影してください (p.30)。

- スレーブCを直接、主被写体に向けて発光させないでください (p.44)。

写真が大きくブレている

- 暗い場所で絞り優先AE (**Av**) モードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に (シャッター速度が遅く) なります。三脚を使用するか、プログラムAE (**P**) または全自動モードで撮影してください (p.21)。なお、[Avモード時のストロボ同調速度] で同調速度を設定することもできます (p.40)。

光量比/調光補正/FEBなどが設定できない

- 撮影モードを **P/Tv/Av/M/B** (応用撮影ゾーン) に設定してください (p.13)。

●光通信ワイヤレス増灯撮影

ワイヤレス増灯撮影ができない

- 発光モードがTTL自動調光のときは、光量比制御、およびワイヤレス増灯撮影はできません。C.Fn-05-0に設定してください (p.62)。

スレーブが発光しない

- マスターの画面に  **MASTER** が表示されているか確認してください (p.47)。
- スレーブの発光グループが適切に設定されているか確認してください。
- マスターとスレーブの通信チャンネルを同じ設定にしてください (p.48)。
- スレーブがマスターの通信範囲内にあるか確認してください (p.44)。
- スレーブのワイヤレス受信部をマスターに向けてください (p.44)。
- マスターとスレーブの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります (p.74)。

主な仕様

■型式

型式	E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光 近接撮影用リング式ストロボ
使用カメラ	EOS・Aタイプカメラ (E-TTL II/E-TTL自動調光) EOS・Bタイプカメラ (TTL自動調光)

■発光部

ガイドナンバー	両側発光時：約14 (ISO100・m) 片側発光時：約10.5 (ISO100・m)
照射角	上下：約80°、左右：約80°
閃光時間	通常発光：約1.8ms以下、クイック発光：約2.3ms以下
色温度情報通信	発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信
フィルター	発光部前面にφ67mmのフィルター取り付け可能
フォーカシングランプ	照射角 ・上側：上下：約60°、左右：約60° ・下側：上下：約45°、左右：約45° 光量調整可能

■露出制御

露出制御方式	E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光、マニュアル発光
調光連動範囲	通常発光：約20mm～5m クイック発光：約20mm～2.7m (ガイドナンバー 7.5時) ハイスピードシンクロ：約20mm～2.7m (1/250秒時) * 両側発光・F2.8レンズ使用・ISO100 * 発光部からの距離
発光形態	両側発光、片側発光
光量比制御	8：1～1：1～1：8、1/2段ステップ
調光補正	1/3、1/2段ステップ±3段
FEB	1/3、1/2段ステップ±3段 (調光補正との併用可能)
FEロック	カメラのマルチファンクションボタン、またはFEロック/AEロックボタンによる
ハイスピードシンクロ	可能
マニュアル発光	通常発光時：1/1～1/128発光 (1/3段ステップ) ハイスピードシンクロ時：1/1～1/64発光 (1/3段ステップ)
調光確認	調光確認ランプ点灯
モデリング発光	カメラの絞り込みボタン、ストロボのテスト発光ボタンによる

■ストロボ充電

発光間隔（充電時間）.....	通常発光：約0.1～5.5秒、クイック発光：約0.1～3.3秒 *単3形アルカリ乾電池使用時
充電ランプ表示.....	赤色点灯：通常発光可能 緑色点灯：クイック発光可能

■光通信ワイヤレスマスター機能

通信方式.....	光パルス
通信チャンネル.....	Ch.1～4
スレーブ制御.....	最大3グループ（A, B, C）
通信可能範囲.....	屋内：約0.2～5m、屋外：約0.2～3m（正面時） 上下：約60°、左右：約80°

■カスタマイズ機能

カスタム機能.....	12種
パーソナル機能.....	3種

■電源

本体電源.....	単3形アルカリ乾電池 4本 *単3形ニッケル水素電池使用可能
発光回数.....	約100～700回 *単3形アルカリ乾電池使用時
節電機能.....	約90秒間無操作で電源OFF
外部電源.....	コンパクトバッテリーパックCP-E4使用可能

■大きさ・質量

大きさ.....	発光部： 約129.6（幅）×112.1（高さ）×25.3（奥行）mm 制御部： 約69.6（幅）×118.8（高さ）×71.4（奥行）mm
質量.....	約455g（ストロボ本体のみ、電池別）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

ガイドナンバー (約・ISO100・m)

通常発光

発光量	両側発光	片側発光
1/1	14.0	10.5
1/2	9.9	7.4
1/4	7.0	5.3
1/8	4.9	3.7
1/16	3.5	2.6
1/32	2.5	1.9
1/64	1.8	1.3
1/128	1.2	0.9

ハイスピードシンクロ (フル発光時)

シャッター速度	両側発光	片側発光
1/125	8.9	6.6
1/160	8.5	6.3
1/200	8.0	6.0
1/250	7.6	5.7
1/320	6.2	4.6
1/400	5.5	4.1
1/500	4.9	3.7
1/640	4.4	3.3
1/800	3.9	3.1
1/1000	3.5	2.6
1/1250	3.1	2.3
1/1600	2.7	2.1
1/2000	2.4	1.8
1/2500	2.2	1.6
1/3200	1.9	1.5
1/4000	1.7	1.3
1/5000	1.5	1.2
1/6400	1.4	1.0
1/8000	1.2	0.9

Bタイプカメラとの組み合わせ

マクロリングライトMR-14EX IIとBタイプカメラ（TTL自動調光に対応したEOSフィルムカメラ）を組み合わせたとときに、使用できる機能と使用できない機能について記載しています。

BタイプカメラでMR-14EX IIを自動調光で使用すると、ストロボの表示パネルに〈TTL〉と表示されます。

Bタイプカメラで使用できる機能

- TTL自動調光
- 両側／片側発光
- ストロボ調光補正
- FEB
- マニュアル発光
- 後幕シンクロ
- ワイヤレス増灯撮影：マニュアル発光

Bタイプカメラで使用できない機能

- E-TTL II／E-TTL自動調光
- 光量比制御
- FEロック
- ハイスピードシンクロ
- ワイヤレス増灯撮影：自動調光撮影
- クイック発光
- モデリング発光

一部のBタイプのEOSフィルムカメラと組み合わせたとときは、ストロボ調光補正、FEB、後幕シンクロなどができないことがあります。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。



警告

下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、感電、破裂、液漏れの原因になりますので次のことは行わないでください。
 - ・ 本体・付属品・接続ケーブルなどの接点部に金属を差し込むこと。
 - ・ 指定以外の電池や変形または改造した電池を使用すること。
 - ・ 本体または電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中投入、水中投入、強い衝撃を与えること。
 - ・ 電池の+-を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の異なる電池の混用。
- 可燃性ガスのある所で使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
- 車の運転者などに向けてストロボを発光しないでください。事故の原因になります。
- 分解、改造をしないでください。内部には高電圧回路が含まれており、感電の危険があります。
- 落下などにより機器内部が露出したときは、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 湿気やほこり、油煙の多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因になります。
- 飛行機内や病院で使用するときは、航空会社や病院の指示に従ってください。本製品が出す電磁波が、計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い、液漏れ、変色、変形などの異常が発生したときは、やけどに十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、やけどの原因になります。
- 電池や付属品は、お子様や幼児の手の届かない所に置いてください。万一飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。電池の液で胃腸が冒される恐れがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属などの異物が入ったときは、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、やけどの原因になります。
- 製品を布でおおったり、包んで使用しないでください。本製品が発熱し、火災の原因になります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってコードやストラップを首に巻き付けて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。

- 本製品を使用しないときは、電池を取り出し、電源バックやコードを取り外して保管してください。感電、発火、発熱、汚損の原因になります。
- 電池の液が目に入らないように、また皮膚や衣服に付かないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こしたり、衣服が汚損する恐れがあります。電池の液が目に入ったり、皮膚に付いたときは、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 本製品を拭くときは、シンナーやベンジンなどの有機溶剤を使わないでください。火災や健康障害の原因になります。



注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 本製品を長期間使用しないときは、電池を抜いて保管してください。故障、汚損の原因になることがあります。
- 電池を廃却するときは、接点をテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因になることがあります。
- 直射日光下の車中、高温状態の車中や熱いものの近くで使用、保管、放置しないでください。製品自体が高温になり、触るとやけどの原因になることがあります。また、電池の発熱、破裂、液漏れなどの原因になることがあります。
- 発光部を人や物に密着させて発光させないでください。やけど、発火の原因になることがあります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 本製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因になることがあります。
- 温度が高くなる部分に直接触れないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。
- 連続発光後に電池を交換すると、電池が熱くなっていることがあります。やけどの原因となりますので、電池交換の際は注意してください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

索引

英数字

4秒/6秒/8秒/10秒/16秒タイマー...	4
Av (絞り優先AE)	21
Avモード時のストロボ同調速度	40
Aタイプカメラ	2
Bタイプカメラ	76
C.Fn	58, 61
E-TTL II/E-TTL自動調光	21
E-TTL II (調光方式)	40
FEB	28, 40
FEロック	29
LOCK	19
M (マニュアル露出)	21
P.Fn	58, 65
P (プログラムAE)	20, 21
RATIO	25, 47, 49, 53, 55
TTL自動調光	62, 76
Tv (シャッター優先AE)	21

あ

アクセサリシュー	15
後幕シンクロ	31, 40
色温度情報通信	23
応用撮影ゾーン	4, 13, 72
オートパワーオフ	18, 61
温度上昇	69

か

ガイドナンバー	75
外部電源	63, 68
カスタム機能 (C.Fn)	58, 61

片側発光	26, 34
クイック発光	14, 18
グループ制御	46
警告表示	69
ケース	3
光量比制御	
A:B	25, 50
A:B C	49, 53
RATIOボタン	25, 33

さ

システム	68
シャッター速度	21
充電	18
充電ランプ	18, 50, 62
初期化	36, 40
シンクロ設定	40
ストロボ機能設定	37
ストロボ制御	38
ストロボ同調シャッター速度	21, 40
ストロボ配置	44
ストロボメータードマニュアル	35
スレープストロボ	43
充電確認	50
スレープ設定	47
全自動ストロボ撮影	20

た	
着脱ボタン	16
調光確認ランプ	20, 50
調光方式	40, 62
調光補正	27, 40
調光レベル	10, 35
調光連動範囲	24
通常発光	14, 75
通信可能範囲	44
通信チャンネル	48
テスト発光	18, 50, 61, 63
電源スイッチ	18
電池	14

は	
パーソナル機能 (P.Fn)	58, 65
ハイスピードシンクロ	30
発光回数	14
発光間隔	12, 14, 69
発光グループ	44, 46, 53, 55
発光制限	69
発光部	8, 16
切り換え	26, 34
発光モード	10, 11, 40
発光量	32, 55
光通信ワイヤレス	43
表示パネル	10
照明	19, 64, 65
濃度	65

フィルター	17
フード	17
フォーカシングランプ	22, 64, 65

ま	
マクロライトアダプター	16, 68
マスター	43, 47
マニュアル発光	32, 55
片側発光	34
発光量	32, 55
ワイヤレス増灯撮影	55
メモリー機能	66
モデリング発光	23, 61

ら	
レンズキャップ	16
ロック機能	19

わ	
ワイヤレス設定	47
ワイヤレス増灯撮影	43
A:B C	47, 49, 53
マニュアル発光	55



キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：9：00～18：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

- ※ おかけ間違いのないようご注意ください。
- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
- ※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理お問合せ専用窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos

本書の記載内容は 2015 年 11 月現在のもので、それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。